



日出谷のとりめし

車窓を眺めながら食べる「駅弁」の味は格別ですよ。米沢駅の「牛肉どまん中」や、横浜駅の「シウマイ弁当」、北海道森駅の「いかめし」などが有名ですが、コンビニなどが普及する前は、山間の小駅でも駅弁を販売していました。例えば、阿賀町にある「日出谷」駅。ここの名物は「とりめし」でした。35年前の記憶ですが、たしか1個500円だったかと……。ご飯の上に、とりそぼろとたまごをのせて、少しのおかずが添えられた素朴なもの。甘めの味付けが美味しかったことを覚えています。そんな「とりめし」が「SLばんえつ物語号」の運行に合わせて復活するとのこと。運行日の11:00から、津川駅のホームで30食限定で販売されるとのことです。阿賀野川の紅葉をみながら、美味しい駅弁を頬張ってみたいですね。



「Eco列車でいこう！」～第169回～ 北アルプスと紅葉。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



長野、岐阜、富山三県に連なる「北アルプス」は日本を代表する山岳地帯だ。滑落事故も多数発生しており、熟練した技術と十分な装備が必要となる。

ただし、その中でも例外がある。「唐松岳」はリフトを乗り継ぐことで、標高1800mから登山をスタートすることができる。頂上(2696m)との標高差は約900m。登山道も整備されており、日帰りが可能だ。

10月14日(土)。新潟市を4:30に出発。北陸道で糸魚川IC、国道148号で長野県白馬村へ向かった。ふもとの「八方」からゴンドラで行くこともできるが、今回は山道を20分ほど登って「黒菱駐車場」に到着した。クルマを降りると一面の紅葉。頭上には青空が広がっている。

リフトを2本を乗り継ぐ。登山者は多いが待ち時間がなくてスムーズだった。料金は往復で1900円。準備を整えて登山開始。八方池まではスニーカーと軽装でも大丈夫。尾根道と木道があり、尾根道を選べば北アルプスを右手に見ながら歩くことができる。天気も良く、風もなく、快適だ。池から先は登山靴が必要。クサリ場などの危険箇所はないが、ぐっと登山道らしくなる。

樹林帯を抜けると「扇雪溪」。運が良ければ「ライチョウ」に出会うことができる。さらに40分くらいで「丸山ケルン」。北アルプスがだいぶ近く感じられる。そして唐松直下の稜線に出た。

左に百名山の「五竜岳」、右には「唐松岳」。正面に「劔岳」。眺望が一気に開ける。絶景だった。

弥彦山などでトレーニングを積んだ後に、「北アルプスデビュー」をしてみてもはどうだろうか。大自然に囲まれて、人生観が変わるかもしれない。



紅葉の登山道に行く。



頂上の小屋から唐松岳を望む



白馬槍ヶ岳、杓子岳、白馬岳がクッキリ。